



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2443号)

令和7年1月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ホタルイカ・ハタハタの来遊状況等について (調査船「たじま」による半中層トロール調査結果)

令和7年1月14日に香住沖、同20日に浜坂沖で漁業調査船「たじま」により、ホタルイカ漁場形成の確認と、トロール試験操業および海洋観測を実施しましたので結果を報告します。

1. 漁場形成調査

・14日はホタルイカ狙いの操業を行っている船は認められませんでした。20日は浜坂沖の220～230m付近に2～3隻の操業船が認められました。

2. トロール試験操業結果

・半中層トロール網(袖先間隔17m、網高さ8m、袋網16節、モジ網240経カバーネットあり)を使用しました。
・香住沖の水深225mと、浜坂沖同250mの2か所で曳網しました(3ノット、30分、E曳き)。

<ホタルイカ>

・250mで31.5kg/網と、漁船操業水深に近い225mより多く入網しましたが、いずれも前年を下回りました。(図1、表1) 250mではホタルイカモドキが、225mではキュウリエソがホタルイカより多く入網しました。(表1)
・体サイズ(外套背長:胴体の長さ)は46～47mm前後で、ほぼ前年並みでした(図2)。
・交接済みの(精子を受け取った)メス個体はまだ無く、来遊初期の群の特徴を示していました。

<ハタハタ>

・いずれも入網は1kg未満とわずかで、前年を下回りました。(図1、表1)。
・2歳魚と見られる体長120～160mmに3歳魚(同170mm以上)が混ざりましたが、1歳魚(120mm未満;豆ジタン)の来遊は認められませんでした。

<餌料生物(カバーネット)>

・両種の主要な餌である小型甲殻類は、250mでは前年並みに採集されましたが、225mでは前年を下回りました。(表1)。いずれもツノナシオキアミが主体でした。

3. 海洋観測と魚探収録

・水深175、200、225、250m(香住沖は250m割愛)での海洋観測とその間の魚探収録を行いました。(図1)

・キュウリエソが主体と見られる濃い反応が水温3～5℃の海底付近に見られました。ホタルイカ狙い操業船の操業海域はそれより深場(海底水温は1～2℃)でしたが、目立った反応は認められませんでした。(図3)

・表中層の海水はよく混合し沖から灘まで13℃台で一定ですが、海底斜面上は沖(深い)ほど水温が下がります。(図4)

4. その他

今後も5月にかけて「たじま」によるトロール調査を予定しています。実施にあたっては、極力皆様の操業の妨げにならないよう注意し、情報提供に努めますので、調査へのご理解と情報交換をよろしくお願いいたします。

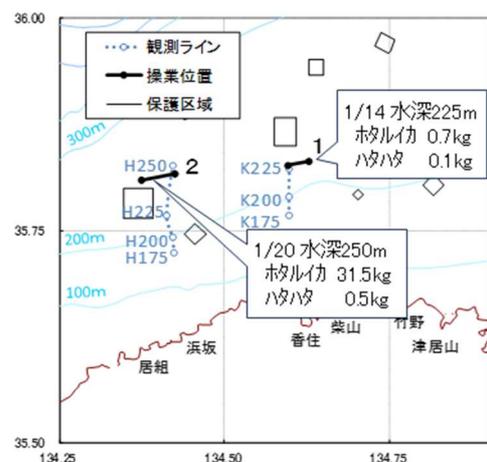


図1 調査海域図と魚種別入網量

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター (担当：大谷)

TEL : 0796-36-0395 FAX : 0796-36-3684

email : nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ : <https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.html>

表1 入網物の詳細

調査年月日	2025/1/14 1/20		(参考;前年)		
	香住沖1	浜坂沖2	香住沖	浜坂沖	
海域	香住沖1	浜坂沖2	香住沖	浜坂沖	
平均曳網水深(m)	225	250	222	247	
入網重量 (kg/網)	ホタルイカ	0.7 31.5	39.9	190.4	
	ハタハタ	0.1 0.5	1.4	10.8	
	ホタルイカトキ	0.0	50.5	1.9	1.1
	キュウリエソ	13.3	0.6	15.4	0.0
	オキアミ・ウミミ (カバーネット)	5.8	9.3	11.6	9.8
海底水温(°C)	2.8	1.4	-	2.6	

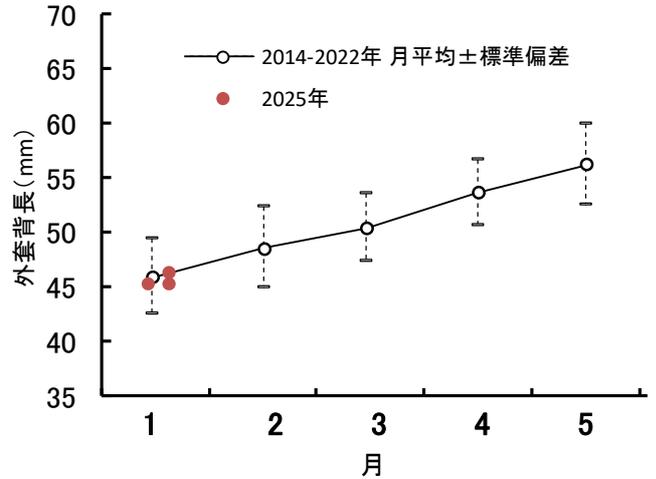


図2 ホタルイカの外套背長

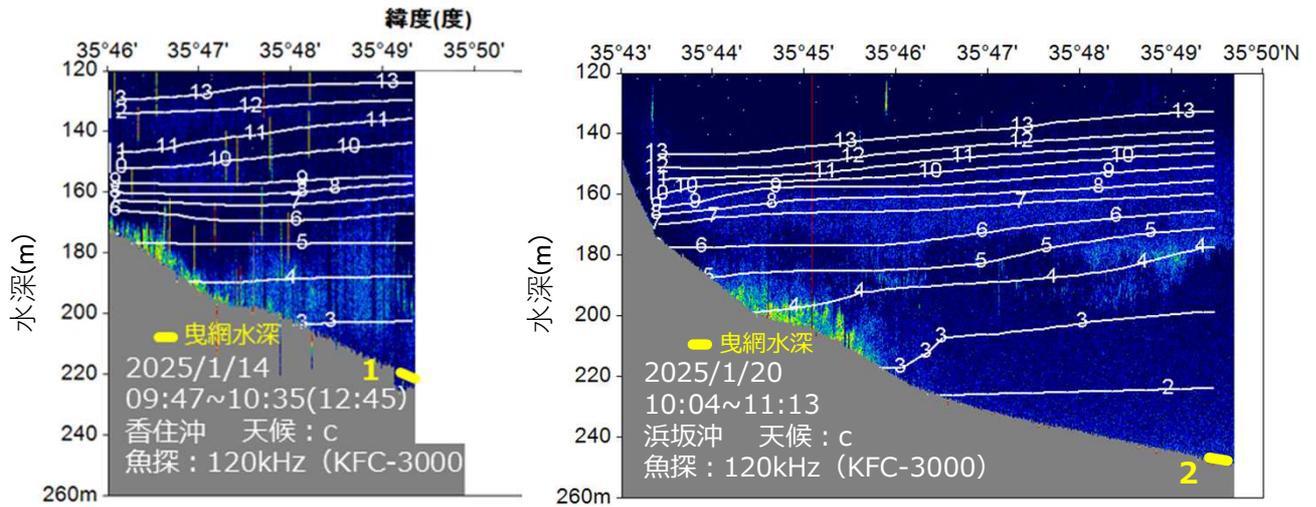


図3 観測ライン水温鉛直断面図と魚探反応(左:香住沖、右:浜坂沖)

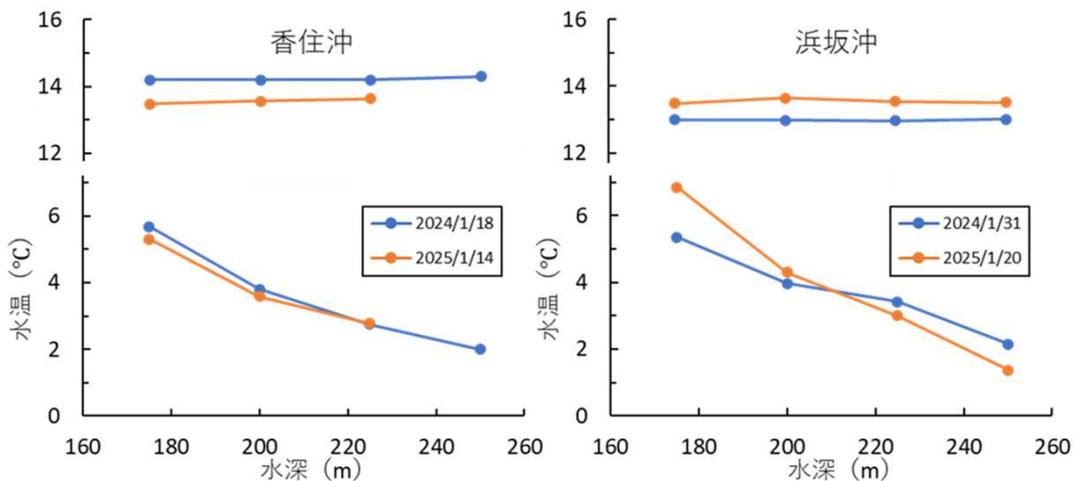


図4 観測ラインの表面水温と海底水温(左:香住沖、右:浜坂沖)